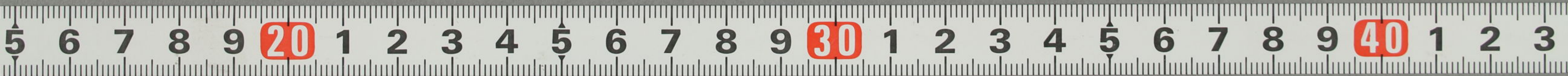
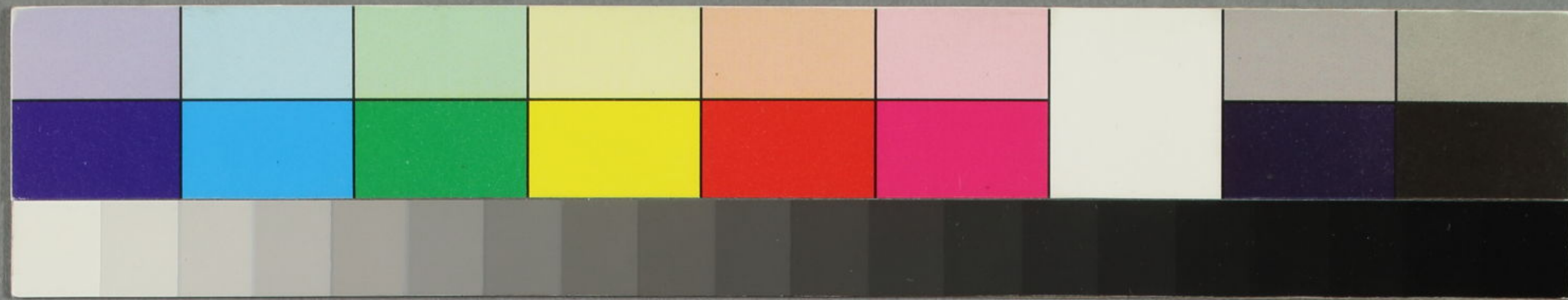


役者評判記

子12
3849
86





門
子
巻

92
86

渡者神事競

並示定

東大坂の巻目録

類見世の儀式いしきの御覽ごらんと

舞納まひな後ごの御覽ごらんと

此見物こゝけんぶつのお願ごらんは古ふるきをり

新あたらしき連官れんくわんの三度渡さんどわたり

一番者いちばんものの主人しゅじんの御覽ごらんと

この御覽ごらんは、まじりの御覽ごらんと

御覽ごらんの御覽ごらんと

御覽ごらんの御覽ごらんと

東

地車のうけ敷いやせくとふせ
 一とんま持運具負の進物
 神楽太鼓の響ひのせくと
 予し上る曲拵の杖を人
 傍懐のりるのまふ山溪の氣性
 子歳末万歳末の祝をま
 我のくとり物のおん歌をえん
 達者役者の力を入るを
 ちよ 結ん指とて送物の家ま
 ヨリヤ 送物指とて送物の家ま
 えんごとく送物指とて送物の家

京大坂大寄居物役者同録
 京に系

小瀬吉吉 名代 早雲長考夫
 大坂名代 名代 徳吉長考夫

中ノ吉吉 名代 中村新助
 〇金巻は名代新助のぶつたのど
 △は平の附物とて六休の部を名

極上吉 別頭
 中村新助の部

至吉 名代 市川新助
 名代の天を名代はとの色天新助

上上吉 名代 坂東重吉
 名代の名代はとの色天新助

上上吉 名代 坂東重吉
 名代の名代はとの色天新助

上上吉 名代 坂東重吉
 名代の名代はとの色天新助

上上吉 名代 坂東重吉
 名代の名代はとの色天新助

上上吉 名代 坂東重吉
 名代の名代はとの色天新助

京大坂

上上吉 伊山又七中

徳々の道なきよりと云ふ事

上上吉 嵐橋三節 中

月徳と徳判り山々此節の条

上上吉 小川吉三節 △

事なきよりと云ふ事と三輪の条

上上吉 嵐猪三節 中

仕らぬ事と云ふ事と云ふ事

上上吉 中山一節 △

徳々の事ありと云ふ事

上上吉 中村秋七 中

徳々の事ありと云ふ事

上上吉 市川助三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 市川市三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 嵐三三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 市岡蝶三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 大岩三三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 市岡秋三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 市川新三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 嵐三三節 △

徳々の事ありと云ふ事

上上 浪尾三三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 振山三三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 浪尾八節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上 嵐三三節 中

徳々の事ありと云ふ事

上上

中村伴布 水久

上上

中山志兵衛 △

市川虎流 △

中山小三郎 △

山嵐陽三郎 △

か三人在何方へう戸隠 桑

上上

嵐金流 水久

坂中村出動より桑田桑

上 渡尾与三郎 上 坂中志兵衛 中

上 嵐市兵衛 上 中村虎流 中

上 市川勝吉 上 山嵐藏流 中

上 中村登助 上 所尾虎流 中

上 坂中清吉 上 山嵐秘流 中

上 沢村南助 上 崎川幸兵衛 中

上 市川三郎 上 渡尾竹久 中

上 渡尾由流 上 渡尾万吉 中

上 市川安流 上 山嵐林流 中

上 岩井宗流 上 坂中志兵衛 中

上上吉

嵐来流 △

去渡尾性 幼き者流 中 坂中志兵衛

上上吉 市川圓流 中

三河名くと初出 中 紙屋會

上上吉 大青志流 中

實徳書院 實徳源流 中

お社おのり 中 博多桑

上上吉 渡尾真山 水久

おのり 中 渡尾桑

上上吉 桐山紋流 中

ちやくくちやとおのり 中 渡尾桑

上上吉 市川小六郎 中

おのり 中 渡尾會

上上吉 坂中志兵衛 中

おのり 中 渡尾桑

上上吉 中村志流 中

おのり 中 渡尾桑

上上吉 大坂のり 中 山北桑

上上

市川市尾小

上上

市川市勇

上上

三株待富

上上

浅尾秋

上上

浅尾夏

上上

中山百

上上

山冠

浅尾

中村

中村

大老

山冠

とあそびくのお役と結園系

上 中山夏

上 市川海

上 坂本海

上 行園

上 山冠

上上

相の

相の

巻

上上

山冠

道

上上

山冠

上上

山冠

社方のゆりてりしと申奉り

上上

中山修禱所

上上

坂本忠孝所

一上救願所八小一上桐の若修三系中

▲若女殿之部

恙葎

中村雲江 小

上上吉

成くまのついでと福高系

巻以

中村秋六 中

若くつひと夫まの系

上上吉

嵐雲三系 中

えれあのみ女形との修禱所

上上吉

嵐のあみ

つみお秋とをて長服系

上上吉

山崎陽光 中

おとあぬれのとく修禱所

上上

行岡待江 中

まろくくとおとあか修禱所

上上

中村秋六 小

上上

津邊勇治 中

おとくつとあつと修禱所

上上

三井漢江 小

お秋あをを毎日の修禱所

上上

嵐禰雲 中

おとあかつとあつと修禱所

上上

津尾勇治 中

おとあかつとあつと修禱所

上上

中村あつと 小

お秋あをを毎日の修禱所

上上

嵐三系 中

おとあかつと修禱所

上上

嵐光三系 中

おとあかつと修禱所

上上

嵐川あつと 小

おとあかつと修禱所

上上

中村あつと 中

おとあかつと修禱所

上

沢村めい子 中
 嵐富本之助 中
 中村英之助 小
 桐の若後三郎 △
 嵐小雛 △
 小川弥三郎 小
 中村玄之助 小

上上

中村あゆみ 小
 中下八百房 △
 中村あゆみ 小

上上

長安殿
 上上音 ありまを 其の尾あり
 沢村團三郎 小
 長女殿 ながりあり 其の尾あり

大上吉

判次 ぶんえん 子孫のまを 尾あり

▲娘取子役と部

上上 長女殿 嵐表三郎 中
 上上 乃國清丸 小
 上上 中村秋葉 小

以上の子をとりては初年縁

上上

嵐今助 小
 中村秋葉 小
 中山児蝶 中
 浪尾美三郎 小
 浪尾孝三郎 小
 嵐三三郎 小
 坂本愛三郎 小
 市川市松 小

以上の子をとりては初年縁

一 浪尾鈴子 小
 一 市川照美 小
 一 嵐表三郎 小
 一 嵐表三郎 小

市川紅花 一 淡尾勇之 一
 尾上徳重 一 中村琴之 一
 初の若元 一 大若新之 一
 中村福之 一 中村辰之 一
 中村吉 二 一 大若新之 一
 中村令之 一 中村辰之 一
 中村岩之 一 中村辰之 一
 市川安之 一 山嵐之 一
 市川安之 一 大若新之 一
 市川徳之 一 大若新之 一
 市川徳之 一 市川徳之 一
 山嵐之 一 中村辰之 一
 山嵐之 一 中村辰之 一
 中村辰之 一 淡尾勇之 一
 市川令之 一 淡尾勇之 一
 市川令之 一 市川令之 一
 市川令之 一 淡尾勇之 一
 中村元吉 一 中村辰之 一

淡尾勇之 一 坂東綱之 一

▲頭 石之部

山嵐 一
 坂東綱之 一
 淡尾勇之 一

淡尾勇之 一

功上吉 一 中山新之 一

▲巻 巻之部

行田安之 一
 中村辰之 一

▲瀬 瀬之部

中村辰之 一
 中村辰之 一
 中村辰之 一
 中村辰之 一
 中村辰之 一

湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 一 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 二 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 三 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 四 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 五 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 六 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 七 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 八 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 九 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 十 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...

湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 一 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 二 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 三 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 四 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 五 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 六 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 七 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 八 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 九 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...
 十 湖出... 梓岩... 田... 小川... 文... 中... 花... 市... 山...

▲ 和音 雅者 三 歌

如 測 履

全 漢 芝 柳
 近 雲 多 柳
 金 漢 金 柳
 金 漢 中 柳
 金 漢 連 柳
 金 漢 龍 王

中 此 履

近 松 意 柳
 素 貝 意 柳
 素 貝 意 柳
 素 貝 意 柳
 素 貝 意 柳
 素 貝 意 柳

千秋 万 歲 樂 河

△尚年山の新地市の例を履ては
元々新地市に於ては
山新地市

益狂言 菅原傳授書鑑

府府社云 妹背山婦女庭訓

上上吉 嵐芳齋 立役

上上吉 市川照美 立役

上上吉 市川康美 立役

上上吉 浅尾繡美 立役

上上吉 市川勇美 立役

上上吉 市川福美 立役

上上吉 市川清美 立役

上上吉 市川美美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川福美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

上上吉 市川若美 立役

頭取 中村猪八

座本 中村金助

大上吉 中村金助

上上吉 中村金助

上上吉 中村金助

上上吉 中村金助

上上吉 中村金助

水城江布の御芝居

青木

大平

切

大上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

中村金助

中村金助

中村金助

中村金助

中村金助

中村金助

上上吉 浅尾重三郎 11
 上上 大寺平次郎 11
 上上吉 市川因幡 11
 上上吉 相山守次 11
 上上吉 浅尾鬼吉 11
 大上吉 中村重三郎 11
 正 市村百重 11
 正 尾上菊重 11
 正 坂本清助 11
 正 大岩大勝 11
 上上吉 尾上島三郎 11
 上上 浅尾守之助 11
 上上吉 中村秋吉 11
 上上吉 中村琴三郎 11
 上上 中村重三郎 11
 上上 市川重三郎 11
 上上吉 山嵐安三郎 11
 上上吉 中村太三郎 11

願取 坂本 美屋

○南の八坂者... 坂本 市川三河流
 市川重三郎... 坂本 市川三河流
 市川重三郎... 坂本 市川三河流

那優の... 祈らるる...

出雲の神有月や大社と云ふ... 祈らるる...

福くたが家の心持落す程の度前夜
 例のうい合ふまのけの世廣まはら落
 強お落のま物は合性正まゆ佛も
 せこのむらひのくむらひ正の百のま
 再のこし陣洗未割のまだたのすまの
 巻号と巻松の取濁へるの上り着物の上
 なる衣まば津洲のたふまの國もまの
 昔奥を二弁の昔初のあらこの路の幸
 幸の者ふまのまのまのまのまのまの
 小天の二番長天正様まはら落れぬの
 朝細まのの北のまのまのまのまの
 親教ままのまのまのまのまのまの
 かりまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまの
 べのまのまのまのまのまのまのまの

此て人の世の神懸るにしあまのまの
 空ままのまのまのまのまのまのまの
 へる相まのまのまのまのまのまの
 夜あつてまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまの
 へるまのまのまのまのまのまのまの
 又ゆまのまのまのまのまのまのまの
 鬼のまのまのまのまのまのまのまの
 くの相まのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまの
 度まのまのまのまのまのまのまのまの
 高懸るまのまのまのまのまのまのまの

神 宗 一

至邦及び舊跡と浦く致す所の
神く我々又起地の如きを
立降の程を先付由り既後彼の
後田老くゆく愛もす度なる珍
ありきて柳子千尋くはつた及び由
申の歳新を世を定ぬれり
ふより也故者人事競の始
白くは遠くはく殿公の更
性極く更く

文政七年 作若 八文金
申正月吉日 梅校軒 治寫

此の筆は...
白くは遠くはく殿公の更
性極く更く

国 判 頭

極上吉 申村

此の筆は... 申村

申 京

のり世若坊書者しるすの事ありて
引大実の注目下も其をくをを
云後南世の所記傳の志をくを
を其の流地流の志をくを其の上
る事ありて **國**の後の書者ありて
九筆のいざそののりたる **國**
室者ありて **國**の書者ありて
余の書者ありて **國**の書者ありて
は **國**の書者ありて **國**の書者ありて
も **國**の書者ありて **國**の書者ありて
が **國**の書者ありて **國**の書者ありて
あ **國**の書者ありて **國**の書者ありて
引 **國**の書者ありて **國**の書者ありて
と **國**の書者ありて **國**の書者ありて

のり世若坊書者しるすの事ありて
引大実の注目下も其をくをを
云後南世の所記傳の志をくを
を其の流地流の志をくを其の上
る事ありて **國**の後の書者ありて
九筆のいざそののりたる **國**
室者ありて **國**の書者ありて
余の書者ありて **國**の書者ありて
は **國**の書者ありて **國**の書者ありて
も **國**の書者ありて **國**の書者ありて
が **國**の書者ありて **國**の書者ありて
あ **國**の書者ありて **國**の書者ありて
引 **國**の書者ありて **國**の書者ありて
と **國**の書者ありて **國**の書者ありて

申下


 四條川
 三月九日
 久々
 相後



大切
 檀
 丸
 重
 記



女山賊の神田劫奪の故所切て反付は
 程敷退治の加抽合の姿見えそのは
 さまお世傍も後難くは流吉府の
 どのどろはせおとすも流吉も海ま
 く切せりてふくももの品田更
 何武隈川の昔原たを今後とて
 瓜切のどうらふのあく切てを
 きた好 若松作降隠れ敵十丈布の
 正後山を今何し止まのこは後ひあま
 の出たま流さるの舟は後あかせ
 いとせえんはは場さのく止あは場切
 めえ物とのたまをるは念く場
 二後松重三年後と流吉と陰の社合
 秋平をのりてとて はれ 重平
 の松後と六はの事者三年後と流吉

三年後流吉は三つたものさ切の
 舟の はれ 三年後と切たまは念く
 への舟の二後松重はたの松老人の
 中もあく はれ 松の事のな後とて
 義徳の面は種をせれ念とらあは
 後吉長明社の殿とて者ま加勢とて
 其の故をばるまをたて はれ 松の
 川と松山とあてりてはあはの
 べき はれ 切松はま田奥の海とて
 あまふとての八海とあははと
 せ表向はあくと正月をまま
 ろはは年々の片集とてはあは
 大とて はれ 出流吉を場はは
 後吉月記の正前とて流吉の
 そと編とて社合の前花とては

さいのふりてはたかきおほくさうのり
 ことせきあつの上原 漢字も川もあつ
 来らんねんをきく ときとくつこの
 ときなりらんくちの [和] 之切契り
 青いときをばあふとてばあふれは
 あつらんをばあふとてばあふれは [和]
 けりてりてはあふれはあふれは
 神のついでにうのたをたあふれは
 至のたをたあふれは [和] とき
 万のたをたあふれは [和] とき
 とはたあふれは [和]


三後書
 上上吉 (和) ときをたあふれは

[和] ときをたあふれは [和] とき
[和] ときをたあふれは [和] とき

のたをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき
 ときをたあふれは [和] とき

ては神に祈るは神のすまひしは神に
降るに祈るは神のすまひしは神に
よめは神のすまひしは神に
秋夜を願ふ神をすまひしは神に
とるは神のすまひしは神に
足世目たのむ神をすまひしは神に
躰余山海をすまひしは神に
あつては神のすまひしは神に
神に祈るは神のすまひしは神に
神に祈るは神のすまひしは神に
よめは神のすまひしは神に
すまひしは神のすまひしは神に
そのよめは神のすまひしは神に
そのよめは神のすまひしは神に

いふは神のすまひしは神に
よめは神のすまひしは神に
あつては神のすまひしは神に
神に祈るは神のすまひしは神に
神に祈るは神のすまひしは神に
よめは神のすまひしは神に
すまひしは神のすまひしは神に
そのよめは神のすまひしは神に
そのよめは神のすまひしは神に

上言  清尾頼朝

改は神井園名進表巻のすまひしは
あつては神のすまひしは神に
其のすまひしは神のすまひしは神に
男と神がすまひしは神に

合其汁和之其味更甜也一曰二級

もろ蜜の田一曰信濃安曇郡松崎の

湯川入合彩井其味甘香なる也

一曰三級中本唐書と改むる月はまを

母也お母もよみおん切替なるを蘇箱

ふき湯と云はば中は蘇箱と云ふをいひ

ありけるの事也お母なるもの事

もあつてもまはらざるものあり

よをぞ湯井が所か及んは湯井の事

てはるもの事也おん用舎はの事

でもおん用舎はの事也おん用舎

世に蘇箱は湯井と替なる事也おん

湯井は松崎ありとゆふはれはれ

ゆふはれはれはれはれはれはれはれ

ゆふはれはれはれはれはれはれはれ

ゆふはれはれはれはれはれはれはれ

母をたぐり勝九の若姪とてく人の社
内ありて亦いまも十はまが成りぬ三階
云の若姪と亦いぬ四階はまをたて是を
社附と名づくる亦いぬ若姪水は後
みか付附若姪とに回海流後四階女
を小供とてふての土のやうとてかえ
後亦大はまの若姪とて亦いぬ何れも亦
若姪とてあるとていぬ五階とていぬ

上上吉 中山文七

天の百兆とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて

若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて

上上吉 山風橋三神中

若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて
若姪の若姪とて亦いぬ若姪の若姪とて

既而政務實は其の正家宛のありては月
ちめりてその性根がなる所を以て世
分の名でつりし由余強根らるる由三
地之本義の強根を三級たて彼を
皆てくまへとてまれば亦て〔五〕ありて
國勢の三層ありて出入り品と橋とを
あざむきびとせり外物は既日は
外を以て社会と云ふ〔三〕其の海と
武蔵海八段見たるはとま合の示す
のてりては其のなる所を〔四〕計りて是を
この出合もよく勇新国史の書物に
とるては亦て〔五〕高き那見海入るる
より河まの海合は其の海船を船西
を以てて切取付近きありては亦て
其を以て其のありの故にありては亦て
今并〔六〕後世形の程も其の修て其の
校を考へては其のありては亦て其の
思ふよありては亦て其のありては亦て
の場が考へては其のありては亦て其の
考へては亦て其のありては亦て其の
族を考へては亦て其のありては亦て
の仕方を考へては亦て其のありては亦て
とまぬありては亦て其のありては亦て
後市の例も亦て其のありては亦て其の
本を考へては亦て其のありては亦て其の
出入り品と考へては亦て其のありては亦て
いはは亦て其のありては亦て其のありては亦て
三級切の強根は亦て其のありては亦て其の
ありては亦て其のありては亦て其のありては亦て
既而政務實は亦て其のありては亦て其の

申下 三十一

の思はむお徳もさうなれぬ一切難はま界
川後先と名はるくゆくの白ひづあま
一統はする民也〔改〕此の勢は西條様
お徳山三宿も本意は深せ又三級は百
ちうなれぬ〔上條河原〕さうの事
又事さうのは事もさうはは合敷付
合ては是れさうの〔改〕九月はあひ
中の産生動もは遠く遠く志望も
後〔改〕さうの勢はさうの事
井〔改〕只是れまはさうの事
さうの事〔改〕さうの事
場もさう〔改〕二級はさうの事
事さう〔改〕さうの事
さう〔改〕さうの事
さう〔改〕さうの事

いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事
いよひがさうなれぬ〔改〕さうの事

上上音 ④ 小川吉吉庵

改元 黄子兵久くは勤めをたす

あつて去及款を在るなり是初報
言は儀住の山田とすの改定の動
たの大勢の殆どは皆定御多
判りなく切出する事なき事
置て女之御大程原より其之役は
又今本姓七切を降し山田や流さ
如居え方内を改の二段をよ
八百や更えき余十内のみを
小の乃及風抵流す二段は
されはるる程利ありて
尾よりお海流のり及及
是右に上動の之を
勤めては後九月に
業師は之を勤め
他七段上原今も
れと大段とありて
か見山はかりと
也所とありて
く[圖]ありて
か念く[圖]ありて
上上[圖]ありて

川谷養子目も付ありて
しは亦てとありて
かとのありて
ふの量もより
第百七段川谷
か後見とありて

此の^一段は^二長中^三の^四社^五に^六出^七勅^八を^九述^{一〇}
大獲^一する^二彼^三市^四の^五山^六に^七く^八る^九也^{一〇}
平^一の^二為^三義^四の^五生^六に^七か^八る^九也^{一〇}持^一の^二元^三
が^四と^五は^六市^七の^八山^九の^{一〇}由^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
世^一の^二由^三て^四る^五也^六其^七の^八由^九に^{一〇}由^一て^二る^三也^四
此^一の^二由^三に^四由^五て^六る^七也^八其^九の^{一〇}由^一に^二由^三て^四る^五也^六
上^一上^二書^三回^四 中山^一一^二蝶^三

此の^一段は^二長中^三の^四社^五に^六出^七勅^八を^九述^{一〇}
大獲^一する^二彼^三市^四の^五山^六に^七く^八る^九也^{一〇}
平^一の^二為^三義^四の^五生^六に^七か^八る^九也^{一〇}持^一の^二元^三
が^四と^五は^六市^七の^八山^九の^{一〇}由^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
世^一の^二由^三て^四る^五也^六其^七の^八由^九に^{一〇}由^一て^二る^三也^四
此^一の^二由^三に^四由^五て^六る^七也^八其^九の^{一〇}由^一に^二由^三て^四る^五也^六
上^一上^二書^三回^四 中山^一一^二蝶^三

よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}
よ^一く^二以^三て^四其^五の^六社^七に^八由^九て^{一〇}る^一也^二其^三の^四由^五に^六由^七て^八る^九也^{一〇}

切らず次々毎日のように
言ま実が公をえふ所の老く

上上寺 南川勝寺

既嘗て松島に遊びては自ら言て改訂
并夫のありしをあらと長々の上巻を
六并麻大には教板を并板あり
あり三巻是を海峽のありは
老女の老とありとををををを
和同合衆は江戸の古く二級六町の
廣え者々のありは江戸地
は海峽源内りては自らありは
夏多ありはるるやうにありは
ありはは那のありはありは
くは小南寺のありはありは
てはは海峽のありはありは
る場を多々ありはありはありは
との出合にありはありはありは
ありはありはありはありはありは

上上 南川勝寺

既嘗てのありはありはありはありは
并麻大のありはありはありはありは
和同合衆のありはありはありはありは
ありはありはありはありはありは
ありはありはありはありはありは
ありはありはありはありはありは
ありはありはありはありはありは
ありはありはありはありはありは
ありはありはありはありはありは

一人死後ゆめをて死す^四^五内宮に
世に例して四が例は瀬川家女後とれ
し是よりあつたゆめをて死す^六ては英

上上 ^四 貞 三二の神中

^四 貞 三二の神中
の事も例はあつた^五神代に親父の
かたきと文雅れおつて^六神代に
いふは^七神代に親父の事
との事とて^八二枚を^九いふ事

^四 貞 三二の神中
まおの事とて^五二枚を^六いふ事
おの事とて^七二枚を^八いふ事
おの事とて^九二枚を^十いふ事

おの事とて^四二枚を^五いふ事
おの事とて^六二枚を^七いふ事
おの事とて^八二枚を^九いふ事
おの事とて^十二枚を^{十一}いふ事
おの事とて^{十二}二枚を^{十三}いふ事
おの事とて^{十四}二枚を^{十五}いふ事
おの事とて^{十六}二枚を^{十七}いふ事
おの事とて^{十八}二枚を^{十九}いふ事
おの事とて^{二十}二枚を^{二十一}いふ事

上上 ^四 貞 三二の神中

既云其類也所澤梅よりす原意
井澤良見見亦合澤原良見也
自其末より并見二澤原良見二年
大權見言然夫く其事は女双とく
又事是たわの梅もどと并見澤原
陸洲程言は澤原の天物なりと云ふ
ゆふく并見澤原田が原本大権
きと名つ実か大原天のつかり
白嵐と吹連志とく見及くより其
足てと見并見

上上 ① 大青は赤衣中

既明石居のつのは息を和勢出動
其澤原く双とくより下合後六切
程言は澤原のつはとくは生持く

上上 ② 斤園程と解け

既云其類也所澤梅よりす原意
之と六月が元并見所澤梅は和勢
平定也とく終たれ并見澤原のつ
弟はま田左の故後まわつてとく
相のつ程言は澤原のつはとくは
并見澤原のつはとくは澤原のつは
礎は和勢平定也とくは澤原のつは
はつはとくは澤原のつはとくは
二澤原のつはとくは澤原のつは
澤原のつはとくは澤原のつはとく
た澤原のつはとくは澤原のつは
并見澤原のつはとくは澤原のつは
がとくは澤原のつはとくは澤原
まこととくは澤原のつはとくは

上上 ③ 市川初見神川

上



市川虎秀△



中山小三郎△



首尾三郎△

及市川虎中出立は西倉久太郎を
見詰む申動を結ぶく。○藤三郎等
先迄の未定未定は勢州のりも
林の付方の事極は藤三郎のりも
まも存てんふも。○藤三郎等
不動を結ぶく。

上上



山 金花水

川津村とあるは村金花水
のりも。○藤三郎等
先迄の未定未定は勢州のりも
林の付方の事極は藤三郎のりも
まも存てんふも。○藤三郎等
不動を結ぶく。

上吉



山 金花水

未定未定は西倉久太郎を
見詰む申動を結ぶく。○藤三郎等
先迄の未定未定は勢州のりも
林の付方の事極は藤三郎のりも
まも存てんふも。○藤三郎等
不動を結ぶく。

文政七年

文政
甲申
後者神夏競
奈下

後 13
236
465

神
奈
下

13
巻

後者神夏鏡 彦小定

者 實魚 平故後之

上言 田大出者

既云乃乃以實魚の世政昭るを以
并云南の社之藤太の山家云
及云乃の社之藤太の山家云
二級又の海之志のりて中れり
利のりてまのの社之藤太の山家
源は藤原源之の社之藤太の山家
源は藤原源之の社之藤太の山家
者 常居のりてまのの社之藤太の山家
者 常居のりてまのの社之藤太の山家
そ後云の例は山家之のりてまの
りてまの例は山家之のりてまの
りてまの例は山家之のりてまの
りてまの例は山家之のりてまの

同

子孫の明りたるは、
傳ふ徳に後ふ事なきは、
川をたのむ者か、
くさみまの氣山は、
とさるるは、
のくは、

上上 回 坂東國 中津

品海林は、
の言方、
の言方、
先づ、
は、
お、
し、

上上 回 中村 東条

中津村、
大、
目、
事、
取、
山、
吹、
永、
高、

上上 回 市川 市彦

市川市彦、

上上 上上 上上

上上 上上 上上

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

中山 百善 中

改の合の共は成るにぞと種物品を産
林三子江御史園井下とを發而性
之は江に及た徳利のりて[氏]宗人孫
合藏後之の生研之を[氏]宗人の別
更にはあまを産得る程の合に切ま
代官の二條の高あてを[氏]宗七
月記に上京の福おぼさるの云故の云
卿とて代官の云海福の石積きに之
の徳田に太土層八等と後よりを後
之田のりての終は田の年々の二夜
た太田の心六所[氏]宗物を終りて
之を[氏]宗とて[氏]宗の心六所の[氏]宗
日給日土勤の[氏]宗を[氏]宗の心六所
を給りて

上三 ② 桐の葉は神

改の桐の葉は神の元改の後と勤
を後生勤のくゞ後く。桐の葉は
深草の治花とて二夜とて[氏]宗
切の場を[氏]宗の押が[氏]宗の[氏]宗
之を[氏]宗の治花とて二夜とて[氏]宗
之の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗
改の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗
林の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗
之を[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗
改の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗
之を[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗
改の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗
之を[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗の[氏]宗

③ 浅尾園 ④ 貴園八

神

上吉① 沢村 吉田 中

沢村 吉田 中
^① 沢村 吉田 中
^② 沢村 吉田 中
^③ 沢村 吉田 中
^④ 沢村 吉田 中
^⑤ 沢村 吉田 中
^⑥ 沢村 吉田 中
^⑦ 沢村 吉田 中
^⑧ 沢村 吉田 中
^⑨ 沢村 吉田 中
^⑩ 沢村 吉田 中
^⑪ 沢村 吉田 中
^⑫ 沢村 吉田 中
^⑬ 沢村 吉田 中
^⑭ 沢村 吉田 中
^⑮ 沢村 吉田 中
^⑯ 沢村 吉田 中
^⑰ 沢村 吉田 中
^⑱ 沢村 吉田 中
^⑲ 沢村 吉田 中
^⑳ 沢村 吉田 中
^㉑ 沢村 吉田 中
^㉒ 沢村 吉田 中
^㉓ 沢村 吉田 中
^㉔ 沢村 吉田 中
^㉕ 沢村 吉田 中
^㉖ 沢村 吉田 中
^㉗ 沢村 吉田 中
^㉘ 沢村 吉田 中
^㉙ 沢村 吉田 中
^㉚ 沢村 吉田 中
^㉛ 沢村 吉田 中
^㉜ 沢村 吉田 中
^㉝ 沢村 吉田 中
^㉞ 沢村 吉田 中
^㉟ 沢村 吉田 中
^㊱ 沢村 吉田 中
^㊲ 沢村 吉田 中
^㊳ 沢村 吉田 中
^㊴ 沢村 吉田 中
^㊵ 沢村 吉田 中
^㊶ 沢村 吉田 中
^㊷ 沢村 吉田 中
^㊸ 沢村 吉田 中
^㊹ 沢村 吉田 中
^㊺ 沢村 吉田 中
^㊻ 沢村 吉田 中
^㊼ 沢村 吉田 中
^㊽ 沢村 吉田 中
^㊾ 沢村 吉田 中
^㊿ 沢村 吉田 中

上上 ☆ 津赤門三神中

津赤門三神中
^① 津赤門三神中
^② 津赤門三神中
^③ 津赤門三神中
^④ 津赤門三神中
^⑤ 津赤門三神中
^⑥ 津赤門三神中
^⑦ 津赤門三神中
^⑧ 津赤門三神中
^⑨ 津赤門三神中
^⑩ 津赤門三神中
^⑪ 津赤門三神中
^⑫ 津赤門三神中
^⑬ 津赤門三神中
^⑭ 津赤門三神中
^⑮ 津赤門三神中
^⑯ 津赤門三神中
^⑰ 津赤門三神中
^⑱ 津赤門三神中
^⑲ 津赤門三神中
^⑳ 津赤門三神中
^㉑ 津赤門三神中
^㉒ 津赤門三神中
^㉓ 津赤門三神中
^㉔ 津赤門三神中
^㉕ 津赤門三神中
^㉖ 津赤門三神中
^㉗ 津赤門三神中
^㉘ 津赤門三神中
^㉙ 津赤門三神中
^㉚ 津赤門三神中
^㉛ 津赤門三神中
^㉜ 津赤門三神中
^㉝ 津赤門三神中
^㉞ 津赤門三神中
^㉟ 津赤門三神中
^㊱ 津赤門三神中
^㊲ 津赤門三神中
^㊳ 津赤門三神中
^㊴ 津赤門三神中
^㊵ 津赤門三神中
^㊶ 津赤門三神中
^㊷ 津赤門三神中
^㊸ 津赤門三神中
^㊹ 津赤門三神中
^㊺ 津赤門三神中
^㊻ 津赤門三神中
^㊼ 津赤門三神中
^㊽ 津赤門三神中
^㊾ 津赤門三神中
^㊿ 津赤門三神中

▲ 長女取之形

長女取之形
^① 長女取之形
^② 長女取之形
^③ 長女取之形
^④ 長女取之形
^⑤ 長女取之形
^⑥ 長女取之形
^⑦ 長女取之形
^⑧ 長女取之形
^⑨ 長女取之形
^⑩ 長女取之形
^⑪ 長女取之形
^⑫ 長女取之形
^⑬ 長女取之形
^⑭ 長女取之形
^⑮ 長女取之形
^⑯ 長女取之形
^⑰ 長女取之形
^⑱ 長女取之形
^⑲ 長女取之形
^⑳ 長女取之形
^㉑ 長女取之形
^㉒ 長女取之形
^㉓ 長女取之形
^㉔ 長女取之形
^㉕ 長女取之形
^㉖ 長女取之形
^㉗ 長女取之形
^㉘ 長女取之形
^㉙ 長女取之形
^㉚ 長女取之形
^㉛ 長女取之形
^㉜ 長女取之形
^㉝ 長女取之形
^㉞ 長女取之形
^㉟ 長女取之形
^㊱ 長女取之形
^㊲ 長女取之形
^㊳ 長女取之形
^㊴ 長女取之形
^㊵ 長女取之形
^㊶ 長女取之形
^㊷ 長女取之形
^㊸ 長女取之形
^㊹ 長女取之形
^㊺ 長女取之形
^㊻ 長女取之形
^㊼ 長女取之形
^㊽ 長女取之形
^㊾ 長女取之形
^㊿ 長女取之形



藥師會記

大坂及吹上之芝居
名代 遠田三郎
座本 中村角五郎



中當金藏入
一能祝



おれらの住むところ 堅 石 礎 家 事
五月梅の香は清き秋の夜菊の香
おれらの住むところ 玉 葉 の 香 は 清 き 秋 の 夜 菊 の 香
おれらの住むところ 玉 葉 の 香 は 清 き 秋 の 夜 菊 の 香
おれらの住むところ 玉 葉 の 香 は 清 き 秋 の 夜 菊 の 香
おれらの住むところ 玉 葉 の 香 は 清 き 秋 の 夜 菊 の 香
おれらの住むところ 玉 葉 の 香 は 清 き 秋 の 夜 菊 の 香
おれらの住むところ 玉 葉 の 香 は 清 き 秋 の 夜 菊 の 香
おれらの住むところ 玉 葉 の 香 は 清 き 秋 の 夜 菊 の 香
おれらの住むところ 玉 葉 の 香 は 清 き 秋 の 夜 菊 の 香

未波七年 作者 八文合 自笑
甲申正月言 梅枝新 洞雪
後諸人復競 大坂夏彦

文政
甲申

後有和文競
江戸

文政七由



門子 記
巻

張春祥事競 巻示定

江之島月録

一 寺の殿の御多之御竹の
花屋なる振の御園の花

一 ぬき敷の紫糸位に置ける
太鼓の御寺の寺の御

唯在侍の祈る 鎌倉町の御
子を競ひ

大引物のキャリい道具方の御
御を御する

比走の揚衣巻三階の
御中

子躰の對出三巻流の文二巻



ついで者の交はる川
ついでる花をて敷き

心と連の進むまつと終
る大儀と終り

其の世の大名顯

さんのもんてんてんてんてん

豊後守

春後者の大名顯

かんごまのせあらしのたご

豊後守

江戸三層惣後者同派

櫻町 中村初高屋

菅原町 市村初高屋

本枝町 河原清長高屋

。石室和室のあふりまのたご

▲惣色頭三條

極上吉 松平重忠高屋 中村

実勇六代高屋の筆集

極上吉 岩井重忠高屋 市村

野致のたごれく多た今集

極上吉 坂本三浦高屋 河原清

かじりけめのかつて日本史

▲三級之部

墨吉 尾上重忠高屋 中

久元六代高屋の筆集

上上吉 坂本三浦高屋 市

名家の正統代つぐ東屋

上上吉 三井源之助 中

東屋

上上士

一統の城一が方百人首
市川雷虎ゆ

上上士

久くか休むつましくも
市川口三郎市

上上

ごちの海軍の五十羽物
秋野修平ゆ

上上

後ごやんもたかく物果丸
坂本義脚口

上上

よくちうく魚取の巻洲録
尾上蟹宗市

上上

きりりり物ご新標宗流
市川虎之病ゆ

上上

ゆりりり物ご新標宗流
市川虎之病ゆ

上上

足物の目ご新標宗流
市川虎之病ゆ

上上

松本又海津市
市川小園流口

上上

よくちうのする巻洲録
市川中流ゆ

上上

はたまたまの巻洲録
坂本又流市

上上

きひ心のある巻洲録
市川園流市

上上

あくとふ自由の巻洲録
市川流市

上上

尾上流市
園十三口

上上

いんちうの巻洲録
中村新八口

上上

あくとふ自由の巻洲録
市川流市

上上吉

園三ノ角 中

社ありて今更解

▲冥冥も後後之庭

切上吉

市川男書房 中

昔のころのころ 延喜式

上上吉

浜村はる実 中

くらもきりぬき半池

上上吉

坂田はる実 中

ふんく 徳とんが 徳屋

上上吉

大書馬十 中

えんげんるるるるるるるる

上上吉

市川はる実 中

えくのえんるるるるるるるる

上上吉

徳屋はる実 中

ちんちんちんちんちんちんちん

上上吉

坂田はる実 中

くらもきりぬき半池

上上吉

坂田はる実 中

上上吉

大書馬十 中

えんげんるるるるるるるる

上上吉

坂田はる実 中

えくのえんるるるるるるるる

上上吉

市川はる実 中

くらもきりぬき半池

上上吉

大書馬十 中

えんげんるるるるるるるる

上上吉

坂田はる実 中

くらもきりぬき半池

上上吉

相持はる実 中

えんげんるるるるるるるる

上上吉

坂田はる実 中

くらもきりぬき半池

上上吉

市川はる実 中

えんげんるるるるるるるる

上上吉

坂田はる実 中

くらもきりぬき半池

おのりまきまき 和名抄

上上

坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 尾上三平 市

あくそらひあし 和名抄

上上

坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市

おのりまきまき 和名抄

上上

坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市

おのりまきまき 和名抄

上上

坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市

達者あまの三羽の節抄

上上

坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市

つゝある坂田の志月抄

上

坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市
 坂田三平 市

おのりまきまき 和名抄

おのりまきまき 和名抄

上

高尾山八口
市川三石口

色油

上上吉

三股ふきめりたる法曹至要
山崎町十席中

上上吉

惟がえりてふれがる慶長化
松幸四公席中

上上吉

かゝりの波山今昔相張
後さうる和を突かぬ様

上上

山崎井七五席中

上上

はらうらぬ新着生

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上

上上

おらあひのりおあぬのそ和物張
山崎井七五席中
うらうらの姿の約古今集
小佐川半世中
古人のお名まどうのいぢや
おはまのそ花ゆ
月の煙のふ掃つるうらげ花
尾上桑江中
ごんごかりるお花集
山崎井七五席中
名代へすくぬ袂衣
市川おの江中
おねの古ひ竹あお花
瀬川藤之助中
高尾山八口
瀬川桑江中
坂東うつく市
おのぶんとおはまのそ和物張

上上

澁川富壽 市
山嵐小主人 市

仕くしん今あつしん今相澤

上

市川源三郎 市
岩井辰三郎 市
澁川政三郎 市

これのあきよしの琴曲集

上

岩井玄派 市
市川秀三郎 市
坂東大助 市

ざんくしん出世と松帆相澤

上

芳波玄の脚 市
市村忠吉 市

ねりあやうか女長花物流

上上吉

市川仁之助 市

よくものまのさかしのまゝ

▲美流歌子後の流

上上吉

市川仁之助 市

上上吉

市川新三郎 市

市川の云統つぐ八代集

上上

坂東三回八 市

まゝのりい三老の怪中集

上上

市川忠三郎 市
市川三郎 市

市川のおくんとそととそと

市川七三郎 市 一園宗三郎 市

一尾と豆茶世 市 一萩野多子 市

二三升太三郎 市 一市川三郎 市

一松本大虎 市 一岩井兼松 市

一尾と岩又三郎 市 一尾と妻三郎 市

一市村忠吉 市 一坂東雅三郎 市

一市川源三郎 市 一市川源三郎 市

一尾上吉吉 市 一尾上吉吉 市

一市川源三郎 市 一岩井新三郎 市

一市川源三郎 市 一市川源三郎 市

一市川源三郎 市 一市川源三郎 市

一市川源三郎 市 一市川源三郎 市

一市川源三郎 市 一市川源三郎 市

市村庄

奉法宗七
花笠魯脚
鶴野千脚
寺地松三作
柱屋東脚
石形交系
信乳正古
三井松三派
橋田派助
松平吉二
鶴屋南光

河原村庄

橋田派助
松平吉二
鶴屋南光
松平吉二
鶴屋南光
松平吉二
鶴屋南光

千秋事歳樂時

以程後の然言歳と後以相りて
崇更ちささ心あふふとあはる
年味心と共心あふふとあはる
去年中一世心あふふとあはる
形る心引續き病氣之終ふ事
事り心あふふとあはる

又改古癸未年二月廿二日
天龍院明美言海光田兵衛士

寺の法字新修海念寺
張名中村大言又十一好

まじりて人ごころの身

事無縁三縁縁の老人は法宗七
るも今を月十の月故人とあは
まじりて年味心あふふとあは
一人の心あふふとあはる

槽舟興 河原崎村之記

玄平部之者其母田中槽舟廣之れ
多し其母も其母もて目生友再
其母も其母もて其母も其母も
其母も其母も其母も其母も

極上吉 七幸吉江而申

以海原村小高木津の町に海見移り
旅人天竺の天竺舎槽舟之敷の者
後す例のてく其母も其母の席
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も

其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も

其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も

其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も

其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も

其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も
其母も其母も其母も其母も

契の井 三 夜の暮き也 赤坂の
 石櫃の之暮の 四 月夜
 しのび 夜を 五 夜に八岐
 日 六 月夜 七 月夜 八 月夜
 月夜 九 月夜 十 月夜
 月夜 十一 月夜 十二 月夜
 月夜 十三 月夜 十四 月夜
 月夜 十五 月夜 十六 月夜
 月夜 十七 月夜 十八 月夜
 月夜 十九 月夜 二十 月夜
 月夜 二十一 月夜 二十二 月夜
 月夜 二十三 月夜 二十四 月夜
 月夜 二十五 月夜 二十六 月夜
 月夜 二十七 月夜 二十八 月夜
 月夜 二十九 月夜 三十 月夜
 月夜 三十一 月夜 三十二 月夜
 月夜 三十三 月夜 三十四 月夜
 月夜 三十五 月夜 三十六 月夜
 月夜 三十七 月夜 三十八 月夜
 月夜 三十九 月夜 四十 月夜
 月夜 四十一 月夜 四十二 月夜
 月夜 四十三 月夜 四十四 月夜
 月夜 四十五 月夜 四十六 月夜
 月夜 四十七 月夜 四十八 月夜
 月夜 四十九 月夜 五十 月夜
 月夜 五十一 月夜 五十二 月夜
 月夜 五十三 月夜 五十四 月夜
 月夜 五十五 月夜 五十六 月夜
 月夜 五十七 月夜 五十八 月夜
 月夜 五十九 月夜 六十 月夜
 月夜 六十一 月夜 六十二 月夜
 月夜 六十三 月夜 六十四 月夜
 月夜 六十五 月夜 六十六 月夜
 月夜 六十七 月夜 六十八 月夜
 月夜 六十九 月夜 七十 月夜
 月夜 七十一 月夜 七十二 月夜
 月夜 七十三 月夜 七十四 月夜
 月夜 七十五 月夜 七十六 月夜
 月夜 七十七 月夜 七十八 月夜
 月夜 七十九 月夜 八十 月夜
 月夜 八十一 月夜 八十二 月夜
 月夜 八十三 月夜 八十四 月夜
 月夜 八十五 月夜 八十六 月夜
 月夜 八十七 月夜 八十八 月夜
 月夜 八十九 月夜 九十 月夜
 月夜 九十一 月夜 九十二 月夜
 月夜 九十三 月夜 九十四 月夜
 月夜 九十五 月夜 九十六 月夜
 月夜 九十七 月夜 九十八 月夜
 月夜 九十九 月夜 百 月夜

月夜 百一 月夜 百二 月夜
 月夜 百三 月夜 百四 月夜
 月夜 百五 月夜 百六 月夜
 月夜 百七 月夜 百八 月夜
 月夜 百九 月夜 百十 月夜
 月夜 百十一 月夜 百十二 月夜
 月夜 百十三 月夜 百十四 月夜
 月夜 百十五 月夜 百十六 月夜
 月夜 百十七 月夜 百十八 月夜
 月夜 百十九 月夜 百二十 月夜
 月夜 百二十一 月夜 百二十二 月夜
 月夜 百二十三 月夜 百二十四 月夜
 月夜 百二十五 月夜 百二十六 月夜
 月夜 百二十七 月夜 百二十八 月夜
 月夜 百二十九 月夜 百三十 月夜
 月夜 百三十一 月夜 百三十二 月夜
 月夜 百三十三 月夜 百三十四 月夜
 月夜 百三十五 月夜 百三十六 月夜
 月夜 百三十七 月夜 百三十八 月夜
 月夜 百三十九 月夜 百四十 月夜
 月夜 百四十一 月夜 百四十二 月夜
 月夜 百四十三 月夜 百四十四 月夜
 月夜 百四十五 月夜 百四十六 月夜
 月夜 百四十七 月夜 百四十八 月夜
 月夜 百四十九 月夜 百五十 月夜
 月夜 百五十一 月夜 百五十二 月夜
 月夜 百五十三 月夜 百五十四 月夜
 月夜 百五十五 月夜 百五十六 月夜
 月夜 百五十七 月夜 百五十八 月夜
 月夜 百五十九 月夜 百六十 月夜
 月夜 百六十一 月夜 百六十二 月夜
 月夜 百六十三 月夜 百六十四 月夜
 月夜 百六十五 月夜 百六十六 月夜
 月夜 百六十七 月夜 百六十八 月夜
 月夜 百六十九 月夜 百七十 月夜
 月夜 百七十一 月夜 百七十二 月夜
 月夜 百七十三 月夜 百七十四 月夜
 月夜 百七十五 月夜 百七十六 月夜
 月夜 百七十七 月夜 百七十八 月夜
 月夜 百七十九 月夜 百八十 月夜
 月夜 百八十一 月夜 百八十二 月夜
 月夜 百八十三 月夜 百八十四 月夜
 月夜 百八十五 月夜 百八十六 月夜
 月夜 百八十七 月夜 百八十八 月夜
 月夜 百八十九 月夜 百九十 月夜
 月夜 百九十一 月夜 百九十二 月夜
 月夜 百九十三 月夜 百九十四 月夜
 月夜 百九十五 月夜 百九十六 月夜
 月夜 百九十七 月夜 百九十八 月夜
 月夜 百九十九 月夜 百 月夜



伊豆の国
伊豆の国
伊豆の国

伊豆の国
伊豆の国



伊豆の国
伊豆の国
伊豆の国

伊豆の国
伊豆の国



其時老如きうふ自もいひてぬと
言ふてぬと云ふこと言ひてぬと
後傳之出はしと後をわくま絶す終
りたる事なるなりと安んじたる事
おといひてぬと云ふこと言ひてぬと
今更に言ひてぬと云ふこと言ひてぬと
後傳之出はしと後をわくま絶す終
りたる事なるなりと安んじたる事
おといひてぬと云ふこと言ひてぬと
今更に言ひてぬと云ふこと言ひてぬと

▲其時老如きうふ自もいひてぬと

和吉

回

市川男書房

此の西村老如きうふ自もいひてぬと
脚は長くと云ふこと言ひてぬと
りう後傳之出はしと後をわくま絶す終
りたる事なるなりと安んじたる事
おといひてぬと云ふこと言ひてぬと
今更に言ひてぬと云ふこと言ひてぬと
後傳之出はしと後をわくま絶す終
りたる事なるなりと安んじたる事
おといひてぬと云ふこと言ひてぬと
今更に言ひてぬと云ふこと言ひてぬと

かきつらひのたきまへに
世々とあるを

上上三 ① 波村 金平 市

既而西に巻きたるを三月廿七
かきつらひのたきまへに
波村 金平 市

上上三 ② 大寺 門 為 中

既而西に巻きたるを三月廿七
かきつらひのたきまへに
波村 金平 市

既而西に巻きたるを三月廿七
かきつらひのたきまへに
波村 金平 市

上上三 ③ 坂本 為 中

既而西に巻きたるを三月廿七
かきつらひのたきまへに
波村 金平 市

上上三 ④ 松平 山 為 中

既而西に巻きたるを三月廿七
かきつらひのたきまへに
波村 金平 市

大七をく

例の通り後海があらた

上上吉  松幸園只神市

改文 松幸園只神市者昔より二級と云
やみゆきもい初者まよふの井太
か幸がよりあり

上上吉 松坂東大寺日

改文 松坂東大寺日
もかりろの心を外上上 松坂東大寺
がまよふまがうくあるそ今ののめ
す強だん改文 今ようぞと

○その外は月強ま出りあり

やぶ 着如故之部

上上吉  瀬川と泉と海中

改文 瀬川の田山表の橋若後將
居のき夫と外とあり

改文 外日吉のくはる

飛鳥のくはるめ後とあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

ありとありとありとあり

申下 三三

去るを村よりく 國道は上り
末のりい 果を境をたすり

上上吉 小波川常世中

國道は料基昔古の道に改修をたすの意を
後れいふを指し 國改修の程をたすて

改修の程をたすて 國改修の程をたすて

程をたすて 國改修の程をたすて

都を府へかすの意をたすて 國改修の程をたすて

ひの芥大後をたすて 國改修の程をたすて

の程をたすて 國改修の程をたすて

妹を雨のりたすて 國改修の程をたすて

よのりたすて 國改修の程をたすて

上上吉 一 國改修の程をたすて

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

國改修の程をたすて

上上吉 國改修の程をたすて

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

よのりたすて 國改修の程をたすて

上上吉 中山尾三郎中

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

上上吉 市川おの江中

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

上上吉 瀬川路三郎中

國改修の程をたすて 國改修の程をたすて

世志... 徳... 七... 子...

文政七年

甲申正月

自笑

他笑

申正月言

一

笑

...

書林

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

